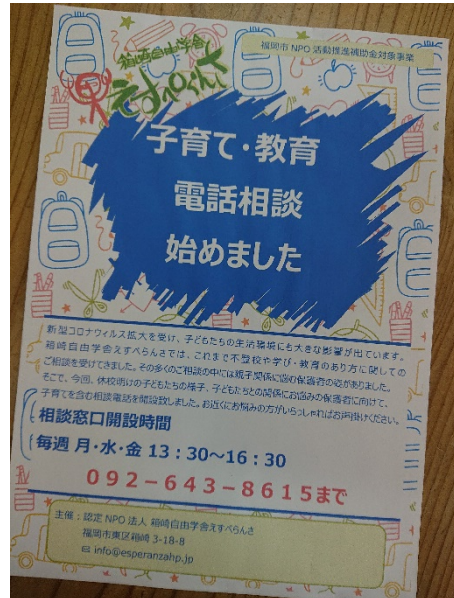


令和2年度NPO活動推進補助金 活動報告書

事業名	コロナ禍における「子育て・教育」電話相談事業
団体名	特定非営利活動法人 箱崎自由学舎 ESPERANZA
法人設立年月	2005年5月
団体の目的	不登校等で学校内に居場所を感じられず、自信を失い、自己嫌悪に陥っている児童生徒に対し、教育環境を確保し、人間力・社会適応力を育むことを目的としている。
主な活動	不登校児童生徒のためのフリースクール運営事業 保護者に向けた教育相談事業
補助事業の概要	<p>(事業を実施した背景、事業内容、成果、次年度以降の展望)</p> <p>【背景】</p> <p>コロナ禍において子育てや教育に関して不安や悩みを抱える保護者や児童生徒の声は大きくなっている。また身近にいる人間に相談することへの抵抗感を抱える方もいらっしゃる。そうした背景から、これまで多くの保護者や児童生徒と関わってきた実績を活かすべく、電話相談窓口を開設した。</p> <p>【事業内容・実施日程】</p> <p>毎週月・水・金(祝日・学舎行事日を除く) 13:30~16:30までの時間帯 上記の日程において担当スタッフを配置し、電話相談に対応した。</p> <p>【成果】</p> <p>コロナ禍において、社会に大きな影響があった(ある)中、子どもたちに対しても、大きな不安を与えた。またこれまでの生活スタイルからの変化により、子どもとの関係性に戸惑いを見せる保護者の姿も多く耳にしていた。今回の事業では、まずは「孤立感」を軽減するという目的で展開した。結果、100名を越える相談の機会につながった。親子関係、学力不安、不登校など、お話を伺うことで「安心しました」との声を頂いたことが本事業の大きな成果を考えている。特に、新年度に向けて、希望や不安の双方を抱えていたであろう、新中学1年生、新高校1年生の保護者からの相談も多く見受けられた。環境の変化に準備をしていたところで4月からの休校によって思うようなスタートが切れず不安不満が増大していた子どもたちの保護者にとっては、一息つくきっかけになったと確信している。本事業においては精神的なサポートのみならず、行政支援、医療機関、民間の子ども居場所活動へ繋ぐケースも数多く、そうした意味で「孤立感」の軽減へつながったと考えている。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>「孤立感」を軽減するための相談チャンネルは多ければ多い程、有効と考える。どこがどういった相談を受けているのか?そうした情報を改めて整理し、関係団体等と共有することを今後おこなっていきたいと考える。連携や共有、共働という言葉が広ま</p>

って久しいが、まだまだ各所連携が不足しており、「必要な時に必要な情報が必要な人に届いていない」状況と言える。こうした状況を改善していくため、業種、官民を越えた連携強化が今後も必要と考える。そのためのネットワークへの拡充、参画において当団体がその中核を担うよう考えている。

※電話相談という性質上、活動写真などはありません。



補足(1)上記項目を満たしていれば、本様式以外を使用しても構いません。別紙記載例を参照してください。パワーポイント等で作成される場合は、10ページ以内とします。

(2)活動写真を2、3枚程度添付してください。

(3)この報告書は、市ホームページに掲載するとともに、寄付者に送付している活動報告書を作成する際に活用させていただきます。